



## 会報第69号

宮城県宮城第一高等学校同窓会

会長 東海林 弘子

所在地 仙台市青葉区八幡一丁目6番2号

電話・FAX 022(261)7855(同窓会専用)

E-mail info@miyaldousokai.com

振替 02290-2-5964

同窓会会報編集委員会

印刷 仙台市青葉区春日町8番34号

創文印刷出版株式会社

同窓会の皆様には、日頃より母校への御支援を賜り厚く御礼を申し上げます。学校の校舎改築も、グラウンドの整備が令和七年八月で終了し、整備された周辺の樹木とともに、宮城第一高等学校はようやく「学び舎」として完成した、そして落ち着いた佇まいを見せております。

令和四年度に探究科を創設した本校では、これをきっかけに普通科、探究科の



校長 中山 治彦

## 知性と創造性を高める学び舎に

いずれも、多くの外部講師の講演や施設研修などの機会を設け、生徒が社会の課題に向け課題の解決を考える学習に力を入れております。教職員も生徒の探究的な学びを支えるべく「新しい学びの姿」を追い求め、校内は日々活気にあふれています。

これらは同窓生の皆様が培った「自主自律」の精神と、社会で活躍する姿が礎であり、生徒は「学び舎」

会員の皆様にはお健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度会報にて年会費納入のお声がけをお願いしましたところ、早速お力添えを賜り、お陰さまで昨年度は例年を上回る年会費納入をいただきました。しかしながら年会費納入は年度

によって波があるため、常任幹事会内に「会費検討委員会」（仮称）を立ち上げ、今後の会費のあり方について検討することになりました。

また、今年九月の総会では、「来年度以降の総会は日時は九月第二土曜日午前中、会場は母校大講義室、形式は協議とアトラクションとし、会食は無し」ということが決まりました。コ

最後にりましたが、会員の皆様のますますのご健康とご活躍を祈念申し上げます、今後とも変わらぬ同窓会へのご支援をお願い申し上げます。

（高16回）



## 流れ

同窓会会長 東海林 弘子

コロナ禍以降いろいろな場面で従来の方式の見直しを迫られることがあります、同窓会総会もその流れの中の一つかとも思われ、ご理解をいただきました。存じます。

## 令和 7 年度 同窓会総会 再会の喜び 変わらぬ想いで創る未来

9月6日(土)、令和7年度同窓会総会が宮城県宮城第一高等学校の大講義室にて開催されました。残暑厳しくも再会を喜ぶ同窓生の笑顔は爽やかで、来賓16名を含む176名の参加があり、盛会となりました。

昨年同様、今年も二部構成での開催となりました。第一部の総会は丹野麻衣子さん(高53回)の司会で進められ、はじめに、総会準備委員長の松本瑞穂さん(高53回)が、同窓生、関係者の方々の尽力により総会を開催できたことへの感謝を述べました。



次に同窓会会長の東海林弘子さん(高16回)の挨拶があり、会費収入が同窓生の協力によって増加したことへの感謝が述べられ、また元東北大学農学部構内に建立されていた「宮城県第一女子高等学校跡地」碑が農学部跡地にオープンするイオンモール仙台上杉の敷地内に移設完了したことなどが報告されました。さらに新役員の方々が紹介され、自席で起立されると、会場が温かい拍手で包まれました。



その後、亡くなられた先生方及び同窓生の方々に黙祷を捧げました。続いて、中山治彦校長からのご挨拶があり、今年の秋桜祭は千五百人の来場者で大盛況であったことや、卒業生が社会貢献している姿を見ることで、在校生の自主自律の精神が育まれていることが話されました。司会から来賓の先生方が紹介された後、同窓会副会長の菅野一枝さん(高22回)が議長となり、議事に入りました。はじめに令和六年度行事報告・会計決算報告及び監査報告・令和七年度行事予定案・会計予算案が、続いて令和八年度以降の総会について日時・会場・形式が提案され、それぞれ提案どおり承認されました。さらに、令和六年三月発行の『会員名簿』につ

いての報告があり、拍手をもって承認されました。

### ● アトラクション

西村佑美さん(高53回)が「ギャルだった高校時代から医師になり社会を変える会社を作るまで」私を突き動かす力とは?というテーマで講演しました。



発達専門小児科医として、一般診療と三人の育児のかたわら、身近な「ママ友ドクター」として活動を続ける西村さん。SNSを始め多数のメディアでの情報発信、著書『発達特性に悩んだらはじめに読む本』のAmazon四冠達成以降五か月連続一位獲得、一般社団法人の設立など、精力的な活動や躍進の背景にあるものとは……医師を志

す原点となった重度自閉症きょうだい児としての生い立ちや自身の第一子の発達特性、友人との出会いや別れが、原動力とのこと。自身の経験や想いを赤裸々に語る姿に、会場は笑いあり、涙あり。

総会終了後も、多くの同窓生が講演依頼や助言を求めて西村さんを囲み、「同窓生として誇りに思う」という声も聞かれました。

閉会にあたり、出席者全員で校歌斉唱を行い、まだ真新しい大講義室に歌声が響き渡りました。

最後に狩野恵さん(高43回)が挨拶をし、第一部閉会となりました。

### ● 校舎見学

第二部の校舎見学会では、時折折れ違う在校生と爽やかに挨拶を交わしながら、校舎内の開放された場所を自由に見学しました。

そこかしこから歓声が聞こえ、同窓生や恩師との再会を喜ぶ姿も見られました。

また来年、ひとつ歳を重ねた皆様と、変わらない笑顔でお会いできますように。

### 講演者の声

母校での凱旋講演を終えた西村さんにお話をお聞きました。

「こんな機会が得られるとは思っていなかったで、非常に光栄です。さまざまな講演の中でも今まで一番光栄な機会をいただきました。愛する宮城・東北に、私の伝えたいことをもっと拡げていきたいと思っています。

自分たちのことは自分たちでやる、やりたいと思ったことはどんどんやってみよう!という校風がありましたので、私が高校時代に一人の生活を通じて得られたことは、エネルギーの使い方。これが大学時代、そして二十代三十代を走り続ける基礎になりました。在校生の皆さんにも、ぜひこれから社会でどんどん活躍してほしいなと思います。」

西村さん、ありがとうございます。





出席者にインタビュー

熊谷 健佑さん(高77回) 立花 咲希さん(高77回) この春に卒業したばかりの仲良し同期のお二人。参加してみても感想は？

「講演に感動しました。高校時代は一瞬で過ぎてしまったという言葉が印象的で、とても共感しました」

「高校時代は自主自律がモットー。大学に入り、自分からやらないといけないことが増えましたが、常に

自分から行動することに慣れていたの戸惑うことはありませんでした。今日の総会でも先輩方の行動に宮城一高らしさを感じました」

初めての総会参加で、多くの刺激を受けたようです。今後のご活躍に期待しています！

奥山 春雄先生(国語) 昭63・4・平10・3 奥山先生は、母校である仙台二高へ赴任し定年を迎えられました。リタイアされた後も、教員仲間とは「一女が一番楽しかった」と話すくらいインパクトがあり、同窓会総会には毎年出席を望まれていましたが日程的に合わず、今年漸く参加することができたのだそう。

当時の思い出をうかがうと、集会の時の騒がしさを挙げられました。「あの人たちは仲間の話は静かに聞くのに、面白くない人の話は全く聞かないんだよね。校長や教員はレベルが試されたと思う」「壇上で話す生徒のレベルが高く、集団のリーダーになるような人が多いのに、実社会に出ると大人しい」と、最後は宮城一高の生徒、卒業生に期待を込めてエールを送ってくださいました。

ご出席の先生方 (順不同・敬称略) 客員(旧職員) 石上 正敏 石澤 浩二 奥山 春雄 穀田 恵子 佐々木 文朗 島倉 透子 東海林 弘子 富永 明 久光 洋一 特別会員(現職員) 中山 治彦 菅野 淳一 能登 美樹子 永沼 幹子 西澤 朋子 狩野 わか子 山路 雪乃

## 会の動き

### ★新入会員

卒業生総数 (高77回生273名)

三万四千五十九名

### クラス幹事

- 一組 住谷優奈 永野ましろ
- 二組 伊東大河 大歳叡傳
- 三組 齋藤葵恋 佐藤朋花
- 四組 大竹真央 高山菜々子
- 五組 鈴木美空 立花咲希
- 六組 熊谷健佑 原 悠乃
- 七組 久保葵生 山田あこ
- 七組 飯山 堅

### ★役員異動

今春の教職員異動により佐藤浩之校長・飛鳥貴教頭が顧問を退任され、新しく顧問に中山治彦校長・穂積暁教頭をお迎えしました。また藤井奈央子さん(高46

回)が監事を退任し、後任に鈴木有子さん(高42回)が就きました。さらに田村智恵さん・濱山麻子さん・守末佳奈さん(いずれも高52回)が常任幹事に就任しました。

### ★常任幹事会・幹事会

六月十四日(土)午後一時より母校秋桜館柔剣道場において令和七年度幹事会が開かれました。会長・校長挨拶の後協議に入り、行事・会計関係の議事が提案どおり承認されました。続いて令和八年度以降の総会のあり方について協議し、「日時は九月第二土曜日午前中、会場は母校大講義室、形式は協議とアトラクションとし懇親会は無し、参加費を基金とする」という案が提案どおり承認されまし

た。また「新校舎落成記念・会員名簿」の発行についても報告があり、特に多くの同窓生の賛助金協賛に対して謝意が述べられました。協議の後、庄子裕美さん(高50回)による講演「見て楽しむ仙台の文化財——遺跡を中心に——」があり、身近にある陸奥国分寺や仙台城跡・大崎八幡宮等の遺跡の発掘調査を通して得られた興味深い講話を拝聴しました。

★『会員名簿』発行報告 令和六年三月に発行された『会員名簿』について報告いたします。発行部数は三千百八十二冊で、広告・賛助金収入は

千八百八十三万五千六百円でした。委託業者サラトとの契約に基づき、広告・賛助金収入のうち二百六十六万七千八百円が同窓会に還元され、同窓会

基本金に繰り入れられました。なお、名簿の残部が少しありますので購入ご希望の方は事務局までご連絡ください。

## 令和6年度宮城県宮城第一高等学校同窓会会計決算書

自:令和6年4月1日 至:令和7年3月31日

【1】基本金 収入 (単位:円)

| 科目    | 予算        | 決算        | 増減        | 摘要   |
|-------|-----------|-----------|-----------|------|
| 繰越    | 5,838,503 | 5,838,503 | 0         |      |
| 雑収入   | 497       | 1,760     | 1,263     | 預金利息 |
| 金簿還元金 | 0         | 2,667,800 | 2,667,800 |      |
| 合計    | 5,839,000 | 8,508,063 | 2,669,063 |      |

<別途> 東北電力株 864株×1,032円=891,648円(令和7年3月31日)

支出 (単位:円)

| 科目     | 予算        | 決算        | 増減         | 摘要 |
|--------|-----------|-----------|------------|----|
| 経常費へ繰入 | 1,400,000 | 0         | -1,400,000 |    |
| 次年度繰越  | 4,439,000 | 8,508,063 | 4,069,063  |    |
| 合計     | 5,839,000 | 8,508,063 | 2,669,063  |    |

【2】経常費 収入 (単位:円)

| 科目      | 予算        | 決算        | 増減         | 摘要                      |
|---------|-----------|-----------|------------|-------------------------|
| 繰越      | 291,403   | 291,403   | 0          |                         |
| 同窓生年会費  | 2,300,000 | 3,373,270 | 1,073,270  |                         |
| 在校生会費   | 504,000   | 498,000   | -6,000     |                         |
| 新入会員    | 280,000   | 273,000   | -7,000     | 1,000円×273名(高77回生)      |
| 総会参加費   | 0         | 0         | 0          | 参加費無料                   |
| 基本金より繰入 | 1,400,000 | 0         | -1,400,000 |                         |
| 雑収入     | 14,597    | 198,523   | 183,926    | 預金利息、寄付(岩沼支部、高77回生)、配当金 |
| 合計      | 4,790,000 | 4,634,196 | -155,804   |                         |

支出 (単位:円)

| 科目        | 予算        | 決算        | 増減       | 摘要                     |
|-----------|-----------|-----------|----------|------------------------|
| 1.事業費     | 2,838,000 | 2,149,700 | -688,300 |                        |
| 1)総会諸経費   | 900,000   | 456,457   | -443,543 | 総会案内、準備委員謝礼            |
| 2)会報発行費   | 1,500,000 | 1,273,971 | -226,029 | 会議費、印刷費、発送費、会報委員謝礼     |
| 3)会議費     | 90,000    | 30,367    | -59,633  | 幹事会案内                  |
| 4)在校生関連費  | 280,000   | 325,104   | 45,104   | 学友会補助、卒業証書ホルダー、入会のおしり  |
| 5)支部助成費   | 68,000    | 63,801    | -4,199   | 東京1万円、他5,000円×10支部、手数料 |
| 2.事務局費    | 1,892,000 | 1,687,382 | -204,618 |                        |
| 1)人件費     | 1,300,000 | 1,273,800 | -26,200  | 事務局給与                  |
| 2)旅費交通費   | 50,000    | 8,840     | -41,160  | 支部総会出席                 |
| 3)慶弔費     | 100,000   | 97,523    | -2,477   | 支部総会祝儀、離任式花束           |
| 4)通信費     | 70,000    | 50,403    | -19,597  | 電話料金、切手はがき             |
| 5)備品費     | 30,000    | 0         | -30,000  |                        |
| 6)消耗品費    | 70,000    | 16,739    | -53,261  | 事務用品等、コピー機トナー          |
| 7)資料整備費   | 22,000    | 13,959    | -8,041   | 卒業アルバム代                |
| 8)情報システム費 | 230,000   | 202,798   | -27,202  | HPドメイン管理、ルーター等、システム追加  |
| 9)雑費      | 20,000    | 23,320    | 3,320    | ゆうちょ通知手数料              |
| 3.予備費     | 20,000    | 0         | -20,000  |                        |
| 支出計       | 4,750,000 | 3,837,082 | -912,918 |                        |
| 4.繰越      | 40,000    | 797,114   | 757,114  |                        |
| 合計        | 4,790,000 | 4,634,196 | -155,804 |                        |

## 母 校 訪 問

## 新グラウンド完成

— 新生宮 — 新たなステージへ —

新しい校庭から望む、校舎と秋桜館



令和七年八月、ついに新しい校庭が完成。新校舎始動から二年、またひとつ大きく生まれ変わった母校の様子取材しました。

## 新たな学び舎とともに

昭和四十一年から令和二年まで、多くの卒業生が共に学び友情を育んだ旧校舎は、老朽化に伴う建替えのため、惜しまれながら、その役目を終えました。

令和二年八月からは校庭に建てられた仮設のプレハブ校舎での授業が始まり、生徒たちは限られた環境の中でも柔軟に日々の学びをつないできました。

そして、令和五年十一月、新校舎・新体育館が完成し、県内有数の施設・設備を誇る新たな学び舎での学校生活が始まりました。

仮設校舎の解体撤去を経て、校庭の整備が開始され、令和七年八月、ついに新しいグラウンドが完成。

母校はまたひとつ大きく生まれ変わりました。懐かしさに心を寄せつつ、変わりゆく母校の姿に未来を感じる今。母校はこれから

変わらぬ学びの灯を、次の世代へとつないでいきます。

## 緑豊かな校庭に

グラウンドには夜間照明が設置され、体育館の跡地には四面のテニスコートが完成し、より充実した環境になりました。

中島丁通り沿いには一本の桜の古木と並んで、新たに数々の木が植えられ、正門に隣接して駐輪場と駐車場が整備されました。

昇降口前はベンチを兼ねたウッドデッキにカツラの木や花壇を設えた広場が、秋桜館前には樹木を囲んだ休憩スペースが完成。

「とはに青葉の映る窓」と校歌の一節を見立てたように、随所に四季を感じられる緑豊かな場所が整備され、木々の成長に伴い、葉の生い茂った緑陰に憩う生徒たちの姿が見られることでしょう。

## 栄光の記録

(令6・9・15 令7・8・31)

## ●運動部

陸上競技 ▽新人大会「男子」一〇mH 二・三位、四〇〇mH 一位、八〇〇mH 三位  
「女子」一〇〇mH 二・四位、四〇〇mH 一位、四〇〇mH 三位 ▽東北新人大会「男子」一〇〇mH 一位、四〇〇mH 三位 ▽東北新人大会「女子」一〇〇mH 一位、四〇〇mH 三位、走高跳四位 ▽U18陸上競技大会「女子」三〇〇mH、走高跳出場 ▽県春季大会兼国スポ県予選「男子」三〇〇mH 一位、砲丸投二位「女子」一〇〇mH 三位、三〇〇mH 一位、一六〇〇mR 三位 ▽県総体「男子」一〇〇mH 一位、四〇〇mH 一位「女子」一〇〇mH 四位、五〇〇mH 一位、一六〇〇mR 害六位、走高跳三位、ハンマー投六位、四〇〇mR 六位、四〇〇mR 五位 ▽東北大会「男子」一〇〇mH 三位、四〇〇mH 四位、一〇〇mH 八位、四〇〇mR 八位 ▽県選手権兼国スポ県予選「男子」一〇〇mH 二位、三〇〇mH 三位、四〇〇mH 三位「女子」一〇〇mH 一位(国スポ出場)、四〇〇mH 三位、一六〇〇mR 三位  
バスケット ▽県高校選手権大会兼全国高校選手権大会県予選「女子」三位 ▽新人大会「女子」三位  
山岳 ▽新人大会 男子団体三位、女子団体二位 ▽県総体 男子団体二位、女子団体二位 ▽東北大会 男子団体九位、女子団体四位  
弓道 ▽県総体 「女子」個人近的二位(東北選手権・インターハイ出場)、射道個人最優秀賞  
ソフトボール ▽第38回県総合選手権大会高校の部 三位 ▽第52回東北総合スポーツ大会宮城県選抜選手10名選出 二位

## ●文化部 その他

文学 ▽第49回全国総文祭(香川)小説・俳句部門出場 ▽第39回全国高校文芸コンクール 小説部門 優秀賞、読売新聞社賞 ▽第21回県高校文芸作品コンクール 小説部門 最優秀賞、優秀賞、詩部門 優秀賞、短歌部門 優秀賞、優良賞、俳句部門 最優秀賞、部誌部門 優秀賞 ▽第26回原阿佐緒賞 青少年の部 奨励賞 ▽第20回全

# 人物往来

(敬称略)

★退職(令和7年3月31日)  
佐藤 浩之 校長  
佐藤 利和 英語  
★転出(令和7年3月31日)  
飛鳥 貴 教頭  
天野 綾子 音楽  
横山 植 家庭  
高橋 正典 数学  
加藤 陽子 英語  
二瓶 貴之 生物  
高橋 基 保健体育  
梅田 千穂 保健体育  
熊澤 啓子 事務部長  
佐藤 菜津美 主査  
村田 高へ

(再任用)  
仙台二華中・高へ  
黒川 高へ  
泉館山高へ  
古川黎明中・高へ  
宮城広瀬高へ  
岩ヶ崎高へ  
広島県へ(交流)  
名取北高へ  
鍋内かおり 主事

★転入(令和7年4月1日)  
中山 治彦 校長  
穂積 暁 教頭・地歴  
小竹由紀子 英語  
上田 裕子 数学  
高田 志穂 音楽  
鈴木 真希 家庭  
三瓶 浩明 数学  
相澤 佑典 国語  
野地里文詠 生物  
佐藤 颯真 保健体育  
大庭 高 事務室長  
鍋内かおり 主事  
明石台小から

★総合教育センターから  
大学入試センターから  
佐沼高から  
仙台三桜高から  
名取北高から  
多賀城高から  
柴田農林高から  
角田高から  
田尻さくら高から  
広島県から(交流)  
県農業高から  
明石台小から



秋桜館前のウッドデッキには樹を囲んで円形テーブルが設置され新たな憩いの場に。



夜間照明に照らされたグラウンドとはまた違った雰囲気に。



秋桜館のとなりに新しい4面のオムニコート(砂入り人工芝テニスコート)が完成。



テニスコートとプールがあった場所は駐車場に。



旧校舎図書室前にあった銅像「微風」は当時と変わらぬ姿でグラウンドを見渡しています。



校舎とグラウンドの間には広々とした空間と随所に配置されたベンチが。生徒たちの元気な声が響きます。

## 2025年度 大学入試等合格者数一覧 (過卒者を含む)

| 大学名 | 人数 | 大学名 | 人数 | 大学名  | 人数 |
|-----|----|-----|----|------|----|
| 北海道 | 2  | 京都府 | 1  | 中央大学 | 10 |
| 北弘前 | 1  | 立大  | 1  | 海大   | 4  |
| 岩手  | 1  | 立大  | 1  | 経大   | 1  |
| 宮城  | 22 | 立大  | 1  | 女子大  | 1  |
| 秋田  | 14 | 立大  | 1  | 電大   | 2  |
| 山形  | 37 | 立大  | 2  | 京大   | 5  |
| 福島  | 4  | 立大  | 10 | 京大   | 2  |
| 茨城  | 1  | 立大  | 16 | 京大   | 6  |
| 筑波  | 1  | 立大  | 14 | 京大   | 6  |
| 宇都宮 | 6  | 立大  | 18 | 京大   | 11 |
| 埼玉  | 10 | 立大  | 3  | 京大   | 6  |
| 千葉  | 3  | 立大  | 3  | 京大   | 2  |
| 東京  | 1  | 立大  | 4  | 京大   | 15 |
| 東京  | 1  | 立大  | 6  | 京大   | 1  |
| 東京  | 1  | 立大  | 2  | 京大   | 10 |
| 東京  | 1  | 立大  | 1  | 京大   | 4  |
| 東京  | 2  | 立大  | 1  | 京大   | 10 |
| 東京  | 1  | 立大  | 1  | 京大   | 3  |
| 東京  | 2  | 立大  | 2  | 京大   | 4  |
| 東京  | 3  | 立大  | 2  | 京大   | 1  |
| 新潟  | 4  | 立大  | 4  | 京大   | 1  |
| 山梨  | 3  | 立大  | 1  | 京大   | 1  |
| 静岡  | 1  | 立大  | 3  | 京大   | 1  |
| 京都  | 1  | 立大  | 1  | 京大   | 1  |
| 大阪  | 1  | 立大  | 3  | 京大   | 2  |
| 大阪  | 1  | 立大  | 3  | 京大   | 5  |
| 大阪  | 1  | 立大  | 7  | 京大   | 2  |
| 大阪  | 11 | 立大  | 14 | 京大   | 1  |
| 大阪  | 2  | 立大  | 2  | 京大   | 2  |
| 大阪  | 1  | 立大  | 4  | 京大   | 5  |
| 大阪  | 1  | 立大  | 3  | 京大   | 4  |
| 大阪  | 1  | 立大  | 1  | 京大   | 9  |

国高校生短歌大会(短歌甲子園) 出場  
生物 ▽第77回県高校理科研究発表会 優秀賞  
▽日本動物学会東北支部大会 優秀賞(2)  
地学 ▽第77回県高校理科研究発表会 優秀賞  
美術 ▽第77回県高校美術展 優秀賞(2)  
▽第75回市高校美術展 美研賞 ▽第86回河北美術展 洋画 藤崎賞  
書道 ▽第73回県高校書道展覧会 推薦、特選(3)、金賞(10) ▽第76回全国学生書道展 奨励賞(3)、推選(5)、特選(5)、金賞 ▽第49回ふれあい書道展 特選(1) ▽第17回書道パフォーマンス甲子園 北海道・東北ブロック五位  
ダンス ▽第32回県高文連ダンスフェスティバル2024 優秀賞  
競技かるた ▽第33回県高校小倉百人一首競技かるた大会 三位 ▽第31回東北・北海道高校小倉百人一首新人大会 団体二位 ▽第49回全国総文祭(香川) 県予選六位・八位(全国大会出場)  
合唱 ▽第92回NHK全国学校音楽コンクール県大会 銀賞  
経営学 ▽全国高校経営音楽部対抗バンドバトル2024夏の陣 準優勝、ベストボーカル、ベストベース  
その他 ▽県高校家庭クラブ連盟研究発表大会 ホームプロジェクトの部 優秀賞  
▽県読書感想文コンクール 自由読書の部 部会長賞(3)

# 足えたもの

## あの日の情熱が今につながる

高72回 平山明日香

高校時代、私の心を捉えたものは部活動である。

当時、途中入部で管弦楽部に所属した私は、入部二週間で本番に出場することになり、それはもう必死に練習したものだ。本番、二人しかないパートの唯一の先輩が無言で吹くことを諦めたときには、当時十六年の人生の中で一番焦ったが、何とか乗り越えることができた。同級生は仲が良く、誰かの誕生日には必ずお祝いをした。「令和」の紙を横に掲げて元号発表ごっこをした。とにかく部活が楽しくて、毎日学校に行っていたのだ。

そのうち、私も進路を考える時期になり、部活を引退した。音楽がない日常は、なんとも言えない虚無感でいっぱいであった。そんなとき、弟の付き添いで社会人の吹奏楽団の見学に行った。そして私は思った、また合奏がやりたい、と。

今、宮一に通うすべての高校生が、自分の夢中になれるものを見つけ、今の私を手に入れてほしいと願っている。



「おい、お前高三だぞ、受験はどうするんだ、これから勉強をしなければいけないのに」と倫理観が正しい私の魂が言っていた。「そうだよな、高三だもん」と、自分の心に言い聞かせ「入団します」と宣言した。

今では、その吹奏楽団の副団長をしている。高校時代に音楽に夢中になれたことが、こうして生活の一部になっている。楽団で受ける刺激は大きい。職業、年齢、楽器など

## マドレーヌの思い出

高60回 小森 絢

一女生はお菓子が大好きだ。宮一生も、きっと同様の人が多いと思う。

授業の合間に売店で蛍光ペンを買ひ足そうと思ったのに、手には焼きプリンのカップだけ、なんて経験は皆一度はあるはずだ。副担任が行事の前日「入賞したらケーキをご馳走するぞ!」と宣言すれば、途端目の色が変わりクラスは団結した。

献立の主業はピラフだった。米を研ぐ・具材を切り揃えるところは、同じ班のメンバーが手際よくやってくれた。コンロの周りに人が集まり、気後れした私は並行してマドレーヌの準備をした。幸いきちんと計量すれば難なく進めることができた。

班のピラフは上手くいった。まさかこの授業も予習してたの?と思うほど完璧だった。将来自炊するようになったら自分一人で行われるかしら、なんて不安はグリーンピースと一緒に飲み込んだ。

向かいの席の子がひと足先にマドレーヌを頬張った。一言「おいしい!」、その声にピラフのスプーンを思わず置いた。「ほんと?あ、本当だ、やるじゃん」。お世辞だったと思うが、飛び交う声に気持ちが舞い上がる。褒めてくれたのは、陸上部で活躍していた、数学が得意な子だった。中学の頃から常に模試の順位表の上位に名前があったから、入学前から一方的にずっと知っていた。自分が作ったものを美味しそうに食べて嬉しく誇らしかった。

部活に行事、それから進路と、頑張る私たちのそばにはいつもお菓子があった。口には含んだそのときめきは、今もあらゆる場所で頑張る私たちのモチベーションを上げてくれるのだ。



- ・11 HR前の廊下で滑って転んだ
- ・夏はナイキ等のスリッパサンダルが流行った
- ・放課後はデイリーヤマザキで肉まんを食べた
- ・冬、雪だるまを作って怒られた
- ・かみなり弁当がうますぎた

平山

● A X G

- ・『テニスの王子様』や『BLEACH』、『NANA』が人で、授業の合間に漫画を回し読んだ
- ・個人ごと区切りのある自習室が整備されて感動した
- ・卒業後も捨てられなかったミッドジャ、白ステッチの黒い上靴、センスの塊のクラスTシャツ

小森

## 高2の夏の密かな野望

高41回 深堀 協子

何十年も前のことで、すっかり忘れていた。実家の物置であの封筒を目にするまでは。

中学の頃ラジオドラマで宮澤賢治原作の『グスコ・ブドリの伝記』を聴き、科学を志す。一女では数学の高橋迪子先生の聡明さに憧れた。

高2になると、思春期のせいか、心身ともに元気をなくした。しかし、そこから立ち上がる時「美大進学」という夢に心を奪われてしまった。ほとんど野望だ。松島に偉人の蠟人形が展示されている博物館があるが、その頃に館内で撮った写真がある。和歌が好きだった祖母は石川啄木の前で、私は棟方志功の前で写真に収まっている。

とは言っても、美術部でもなく才能があるわけでもない。気後れがあった。先生にも友達にも相談できず、某美術予備校を訪ねた。その場で「今から合格を目指すなら一日百枚デッサン

しない」と言われた。その予備校の封筒をとっておいだところを見ると、未練はあったらしい。でも、さすがに諦めがついて、普通の大学を目指す方が現実的だと考えたのだろう。高校最後の一年間は受験勉強に没頭した。その後も私は迷う。理学部から工学部に移ろうと考えて「大学を再受験してください」と言われたこともあった。伝統工芸の専門学校に入って挫折もした。まわり道だろうし周りに心配をかけた。だが、そのときは真剣だった。得るものもあった、ということにしよう。

近年は大人しく、研究所

の科学広報

という仕事

を天職だと思

っている。

ウェブや印刷物のデザ

インも考え

るし、動画

編集もする。



何より、取材と称して研究者の話を聞くのは楽しい。今は文理融合研究を進めるプロジェクトの広報担当で、考古学や文化財など興味のある話題も多い。振り返りの機会を与えてくれたこの企画に、ありがとう。

- ・「ミスター女」を決めるイベントがあった
- ・一階の北側は「シベリア」と呼ばれていた
- ・政令指定都市になる直前だった。区割り発表時に、自宅が中央区(青葉区)になると喜んでいたら同級生が、山形の県境まで青葉区だと知ってショックを受けていた

深堀

- ・制服自由化の議論が進む前の数年間、茶色のVネックのタキシードを着ていた
- ・一年生のとき、授業開始時に先生が「皆のなかに三島由紀夫を読んだ人はいるかな」と言った。数人いた。すると先生は「今日、彼は自決しました」と!

吉岡

## 洋裁と一女をつなぐもの

高23回 吉岡 ゆり

話が来た。「参加者の話を聞いた。一女教師の嶋貫武雄記念品にネクタイネックレスを作った。そして、準備から当日まで沢山の同期生がお手伝いしてくださった。実は、内田さんだけでなく、殆どの方とは同級生でもない。リメイクしてバッグ等し、一女時代に話をしたこともなかった。その方々と会終了後もお付き合いをさせていただいている。老年になっても友人が増えるなんて、生きていると良いことがあるもの。自己評価も少し上がった。「芸は身を助く」的な洋裁、そして一女生の絆、それが私を捉えたものと思っている。

五十年前、就職祝いに父からミシンを買ってもらった。今使っているミシンは三代目となり、独学の洋裁を続けている。布が平面的のままランチョンマットになったり、洋服等の立体になったりするのが面白く、端布を組み合わせて有効活用できるのも楽しい。しかし、私のやっていることは格調が低く生産性もないので、自己評価は低かった。

二〇一六年春のこと。十一月にホテルで行われる同期会の実行委員長から期間、仕事の傍ら制作に没頭



# 各回だより

## 華甲同期会

高35回

それぞれの人生の一周目を走り終え、二周目のスタートを切った素敵な女性たちが次々と会場である



司会のケイコちゃん  
はプロかと思うほどの  
美声でテキパキと会を  
進行。ちょっと緊張し  
ながらのトウコちゃん  
の挨拶になんだか涙が  
出そうになったり。高

DUCCAに集まりました。

二〇二四年九月十五日、一  
女三十五回生の華甲同期会  
です。遠くはアメリカ、ド  
イツなど海外から、国内の

同期生もあちこちから駆  
けつけ、八十名を超える同  
期生と五名の恩師の先生方  
との、それはそれは華やか  
で賑やかなあつという  
間の二時間となりました。

校時代と変わらないおしゃ  
べりと笑い声が同時多発的  
に繰り広げられ、グラスを  
合わせる心地よい音が再会  
を喜び合う乾杯の声に重な  
り合い、あたたかくて懐か  
しい時間のBGMとなりました。

先生方も高校時代そのま  
まのお人柄で、「君は素晴  
らしい人だと言ってくれる  
人の存在が自分を支える」

「平和を作るのは大人の仕  
事」「家庭菜園をしている  
と地球温暖化が分かる」な  
ど貴重なお話をしてくださ  
いました。そして、熱海先  
生にお願いしてあの頃の  
授業と同じ美声で「ソル  
フェージュ」と言っていた  
できました！その一言に会  
場中が大盛り上がり。田代  
先生は、この日のために書  
をしたため会場を気品に満  
ちた美しい場所にしてくだ  
さいました。素晴らしい先  
生方が素晴らしい教育を実  
現されていた一女時代にタ  
イムスリップしたような気  
持ちになりました。二周目  
の人生も、一女を心の中に  
抱きしめ、次の再会の時ま  
で頑張りたいと、心に灯が  
ついた会でした。

企画、運営に当たった同

期の皆様は、松川菱の校章  
付きのどら焼きや還暦チロ  
ルチョコ等、母校愛に溢れ  
たお土産など隅々にまで心  
を配り、最高の思い出をプ  
レゼントしてくださいまし  
た。この場を借りて心より  
御礼申し上げます。ありが  
とう!!またやろうね!!それ  
まで、みんな何があっても  
元気でいようね。一女大好  
き！

(多賀野千鶴)

## 研心殿での再会

弓道部 高37回

令和五年の夏、私は街中  
で偶然に元弓道部顧問の遠  
藤和暢先生とお会いしまし  
た。

この出逢いをきっかけ  
に、翌年の三月二十三日に  
「遠藤先生を囲む会&弓道  
部同期会」を開催しまし  
た。周囲の皆様のご協力の  
おかげで、母校の新弓道場  
の見学ができることにな  
り、当日は宮城一高正門前  
に集合しました。新校舎の  
正門から続く敷地内には石  
畳が広がり、所々にはめ込  
まれた校章や秋桜等のモチ  
ーフが素敵でした。中庭

から見える色鮮やか  
な青い外壁も印  
象的でした。

正門まで現弓道  
部顧問の先生が私  
たちを迎えに出  
て、弓道場まで案  
内してくださいま  
した。弓道場の入  
口に「研心殿」の  
看板がありまし  
た。「研心殿」と  
は一女の時代から  
の道場名です。少  
し緊張しながら弓  
道場の中へ入る  
と、壁の上部一面  
に一人一人の卒業  
部員名の木札が掛  
けられていました。平成元  
年度の卒業生が寄贈された  
ようです。その中に自分た  
ちの名前を見つけた時はと  
ても嬉しかったです。やが  
て部活動が始まり、心地良  
く張り詰める静寂な空間  
で、在校生たちの弓を引く  
美しい姿を拝見しました。  
懐かしさと感動、そして受  
け継がれていくものを感じ  
ました。部活動終了時には、  
在校生と私たち卒業生一同  
が神棚に礼拝しました。そ  
の後、遠藤先生からお言葉  
を頂き、在校生と卒業生の



代表が互いに挨拶の言葉を  
交わしました。

弓道場の見学が終わると  
宮城一高の近くにある「い  
わま亭」で、遠藤先生を囲  
み、各々の近況報告や思い  
出話に花を咲かせながら食  
事を楽しみました。卒業し  
て三十年以上も過ぎた私た  
ちですが、再会してみると  
何故か心が安らぎました。  
来年は還暦を迎えます。  
次回も遠藤先生と共に皆で  
元氣にお会いできればと思  
います。

(大森志津子)

## 卒業から二十五年

高53回

九月六日土曜日、夏の暑さが残る夕暮れ時に、S・P・A・L仙台東館イルチエントロハミングバードにて高五十三回生同期会を開催しました。

東日本大震災があった年の秋に開催して以来、実に十四年ぶりの再会。恩師三名を含む総勢四十六名の仲間たちが県内外から集まりました。

総会で講師を務めた幹事西村佑美さんからの指名を受けた武山美奈子さんの乾杯の発声で開会。そこかしこで再会を喜び合い、懐かしい思い出や近況話に花を咲かせる姿が見られ、会場は高校時代と変わらない笑顔と大きな笑い声に溢れていました。

終盤には、恩師から温かいメッセージを頂いたのご紹介。「皆さんに会えて元気をもらった。これから素敵な人生が待っている。頑張って」と安久津先生。「会いたい人には今すぐ会う。やりたいことは今



した。

そして、この日一番の響めきと笑いに包まれたのは、先生方は今の私たちと同じ年頃だったと判明したとき！当時もっと年上だと思っていた先生方と同じ年代になっていただなんて……(ショック！)

次の開催は五年後。タイトルは「四十八歳だよ！きらきらパーティーin東京!!」。みんなそれまで Enjoy your life の宿題もしっかりと出されて、卒業後三十年での再会を約束しました。

最後の最後まで、一女らしいユーモアと友の聡明さや互いの絆に触れて、明日からの社会生活の糧となる充実した会となりました。

(太田 寛子)

すぐやる。悔いのない人生を」と久光先生。トリを飾った富永先生からは、「三十九歳で一女高に着任。そこから十年が仕事のピーク。とてもいい仕事ができた。四十代、子育てや働き盛りで大変だけど、ぜひ一日いちにちを大切に過ごして」と背中を押していただきました。

## 弔意

令和七年九月末日までに同窓会事務局宛に直接お報せいただいた方です。(敬称略)

|                 |      |            |
|-----------------|------|------------|
| 旧職員 伊藤 桃子 (福来)  | 高8①  | 三浦 文子      |
| 旧職員 吉田 睦男       | 高9①  | 岩屋 幸子 (津田) |
| 旧職員 若生 茂        | 高9②  | 小曾 章子 (篠塚) |
| 本44 粟田口照子 (手島)  | 高9③  | 菊地 渥子 (山本) |
| 本44 宇津木えつ子 (小林) | 高9④  | 五十嵐久子 (齊川) |
| 本44 及川とし江 (庄司)  | 高9⑤  | 萱場 恂子 (升)  |
| 本44 神澤 紀子 (森川)  | 高9⑥  | 片山 洋子 (片山) |
| 本45 伊串 富子 (伊串)  | 高11② | 三橋 芳子 (渡辺) |
| 本45 岡田 昭子 (柳橋)  | 高11④ | 鈴木 紀子 (上郡) |
| 本45 齋藤 貞 (齋藤)   | 高14② | 山田由美子      |
| 本46 葛西 和子 (二階堂) | 高16② | 齋 妙子 (太田)  |
| 本46 下田 節子 (熊谷)  | 高17② | 渡辺 祥子 (高橋) |
| 本46 西村 輝子 (須藤)  | 高18⑥ | 赤間 智子 (赤間) |
| 本48 山本 たか (八木)  | 高20④ | 中野 友恵 (佐藤) |
| 本50 菱沼 一子 (菱沼)  | 高22② | 浜田 宏子 (我妻) |
| 本51 池田 妙子 (種彦)  | 高22③ | 遊佐 宏子 (高山) |
| 本51 遠藤 睦子 (手島)  | 高27⑤ | 榎原 千寿 (内海) |
| 高2① 和泉 敬子 (岡)   | 高27⑦ | 三上 敦子      |
| 高4⑥ 手島 茂登 (内ヶ崎) | 高30⑤ | 西崎 文子      |
| 高5③ 伊藤 雅子 (菅原)  | 高44④ | 近藤 歩 (奥田)  |
| 高6⑥ 山下 智子 (深瀬)  | 高53② | 川添さやか      |



北から南から (敬称略)

受賞・受章・表彰  
安井 敦子(高14回)  
第72回県短歌大会  
河北新報社賞  
山田 愛子(高21回)  
宮城県芸術祭  
宮城県芸術祭賞(写真)  
小島 妙子(高25回)  
仙台市政功労者  
(教育・文化功労)  
宮城三恵子(高26回)  
藍綬褒章(調停委員)

萩生田美樹(高32回)  
宮城県芸術祭  
宮城県芸術協会賞(写真)  
蜂屋ひろみ(高38回)  
河北美術展  
青森県知事賞(洋画)  
小山 晴子(高4回)  
『クロマツの海岸林のものがたり』  
松浦 友紀(高40回)

出版  
大槻 幸子(高17回)  
和紙人形展「あの日あの時あなたは何処に」  
「政宗公の生涯」  
坂本こずえ(高26回)  
田中かほる(高26回)  
つむぎ織二人展

近況  
相澤やよい(高32回)  
東日本大震災復興応援コンサート「祈りをこめて」が50回を越えた。

## 情報をお寄せください。

同期会やOG・OB会の開催、あるいは受賞・受章・表彰、出版、個展・演奏会等の情報がありましたら会報編集委員会までご連絡ください。「はちの巣」「北から南から」の欄で紹介させていただきます。連絡先は同窓会事務局に同じです。

# 支部だより

## 三陸鉄道レトロ列車で

岩手支部

三陸の空は高く澄み渡り、寄せる波は蒼く、どこまでも穏やかな夏の日でした。

同窓会岩手支部は七月十三日、十二名の参加のもと宮古で開催されました。

遠路遙々仙台から二名、盛岡から七名、宮古から三名、それぞれの想いを胸に三陸鉄道貸切列車に乗りしました。

津波で流された家屋の跡



地には高い防潮堤とソーラーパネルが設置され、住居は高台に移転された風景が胸に痛く刺さりました。



懇親会では海鮮丼と三鉄応援の飲み物、おやつ、そして八十歳以上の参加者には三鉄製品のおみやげ等、三陸復興を祈念しての企画となりました。田野畑のアイスクリームに舌鼓を打ち、海からのお土産を抱えて帰路につきました。



同じ学び舎での思い出を共有し、年齢を超えての繋がりを確認し、再会を約束しての楽しいひとときでした。

(高13回 旗福 宣子)

## 世代をつないで

塩釜支部

塩釜支部では、令和七年七月五日、ホテルグランドパレス塩釜において第二十四回塩釜支部総会を開催しました。学校からは中山治彦校長、本部からは東海林弘子会長にお越しいただきました。

中山校長は「今も生徒の皆さんは自主自律の精神でアクティブかつポジティブに学校生活を送っている」と楽しそうにお話しされました。

また、東海林会長からは「今回二十四回目の総会だが、その何十年も前から塩釜支部は活動していた」というお話を伺い、身が引き締まる思いでした。

講演は「あきらめの悪い社長の呟き〜世代間ギャップを楽しみに変えよう〜」という演題で、大和晴彦様（IT系会社代表取締役）にお話しいただきました。会社を発展させていくために一番大

切にされていることは、

「失敗を恐れない。失敗から学ぶ」ということだそうです。また、いろいろな世代の社員が協力し合って仕事を進めるコツとして「違いを前提にすること」「共通点を探すこと」「聞く力を育てること」「相手への敬意を忘れないこと」「文化の違いを学ぶこと」を挙げられました。

講演後の懇親会では、サブライズで大和様がフルート演奏をプレゼントしてくださいました。穏やかな音色には沢山の困難を楽しみながら乗り越えていらした大和様のお人柄がにじみ出ていました。



今回の総会の参加者は

十五名、先輩会員とフレッシュな会員との年の差は半世紀以上。「自主自律」という言葉が半世紀以上の年の差をつないでいる私たちの母校に誇りを感じます。

塩釜支部では、今後も世代間ギャップを楽しめるような支部活動を工夫していきたいと考えています。

(高31回 高橋 徳子)

## ★支部総会・懇親会

- ・東京支部 5月25日  
ハイアットリージェンシー東京 66名
- ・札幌支部 6月14日  
レストラン「和乃八窓庵」 9名
- ・塩釜支部 7月5日  
ホテルグランドパレス塩釜 16名
- ・岩手支部 7月13日  
三陸鉄道貸し切り車両 12名
- ・福島支部 10月5日  
中華レストラン唐紅花 11名
- ・石巻支部 10月19日  
石巻グランドホテル 24名
- ・大崎支部 11月2日  
レストランスギヤマ 6名
- ・関西支部 11月8日  
京都新阪急ホテル 5名
- ・仙南支部 11月30日  
和洋亭ぶざん 21名

## コロナ禍後、再び 仙南支部

昨年十一月、五年ぶりに

支部総会を開催することができました。コロナ禍中、支部じまいすることを考えましたが、貴重な宝物のような支部会を未来に引き継いでいこうと決意しました。

新たな役員として高

五十六回の松本志敏さんが加わり、案内状の発送や連絡にパソコン、LINEが使えるようになったことが開催の大きな原動力となりました。

総会当日は、二十一名の参加(高16~56回)があり、本部から東海林会長にご臨席いただきました。会の前半は、仙南シンケンファクトリー研修室で、角田市の金上病院副院長の



安藤由紀子先生(高31回)に「地域づくりと地域包括ケアシステム」医療・介護をつなぐシームレスケア」と題し講話をいただきました。長年にわたって地域医療に取り組まれている実績に基づいた素晴らしい内容で、そろそろ高齢期を迎える会員にとっては明るい希望の光となりました。その後、レストランに移動しての会食と歓談。

佐藤睦子さん(高17回)の歌曲歌唱、大槻幸子さん(高17回)の和紙ドールの披露もあり、大いに盛り上がりしました。

素晴らしい先輩・後輩に出会うことができ、卒業して半世紀も経つのに、あらためて世に誉れある女子高に通ったものだなあと感激しました。

さて、今年度は、高橋章子さん(高16回)の講話

「莫匠三全の不易流行」を予定しております。実業家のお話を聞く機会があまり無い同窓生にとって、実業の神髄をお聞きする絶好のチャンスと考え企画しました。《自主自律》の精神に富む同窓生の楽しい集いを今後も続けていきたいと願っています。

(高24回 大槻 浩子)

## 恩師を訪ねて

### 「いつまでも青春で」

吉田裕亮先生



真夏日になった七月八日吉田裕亮先生に秋桜館会議室へお越しいただき、高三十三・四十三回生の編集委員七名がお話を伺いました。秋桜館前で先生を出迎えた教え子たちは当時と全

く変わらない先生の歩き方やお声、笑顔に一瞬にして三十五年前に引き戻されました。

先生は会津若松市生まれで現在七十一歳。東京教育大学(現・筑波大学)を卒業され、宮

一女高へは昭和

六十二年に保健体育教師として赴任され平成八年までの九年間在職されました。

授業では厳し

かった水泳の話題になり、ひとりの編集委員がクロールで五十メートルを泳ぐ課題をなかなか達成できず放課後居残りに。先生の辛抱強い励ましのおかげで何度も休みながらも冷たく藻で少し緑色になったプールで泳ぎ切った苦い思い出を話すと「それでも頑張っ泳いでくれた生徒に感謝ですよね」と振り返られました。

部活動ではバスケット

ボール部の顧問をされ、県下の強豪校に割って入り東北大会へ導くなど情熱的に指導されました。指導者として一番嬉しいことは、「教え子が親になり、その子どもたちがバスケット

ボールをプレーしているのを見聞きすること」とのこと。同級生や先輩、後輩という人と人との繋がりが世代を越えて受け継がれているのがバスケットボールの魅力だと教えてくださいました。

宮一女高から異動されてからも指導とともに審判活動を続け、東北ブロック審判長を十二年間務められました。現在は宮城県バスケットボール協会役員やB

リーグのゲームディレクターをされていて永くバスケットボールに関わりご尽力されています。ご家庭では毎朝一時間のウォーキングの後、主夫として家事をこなしていらっしゃると

か。奥様やご友人と旅行を楽しんだり、お孫さんたちのミニバスケットボールの試合の「追っかけ」をしていると話されるとすっかり「じーちゃん」のお顔になりました。

最後に「みんなは人生の一番いい時期が一番いい場所が一番いい友だちと過ごしたんだろうね。気持ちとか考え方とか生き方とか変わった？変わってないよね」と温かい眼差しで話され「だからあの時のまんままでいてください。いつまでも青春でいてください」との言葉をいただきました。

この言葉は私たちの心に沁み渡り、宮一女高の



新校舎体育館にて

ふるさとだより

富谷市

FURUSATO  
2025.12  
DAYOR

宿場町として栄えた歴史も

ありつつ、変化著しい富谷市は、仙台市の北部、宮城県のほぼ中央に位置します。人口は五万二千三百七十八人（令和六年三月末現在）で、高齢化率二十二・七パーセントというのは、宮城県内で最も低い値です。昭和三十八年（一九六三年）の町政施行から約半世紀で人口は十倍になり平成二十八年十月十日に市政施行しました。企業誘致と住宅地の造成が進められた結果、若さと勢いのある現在の富谷市が形成されています。

## なぜ富谷市

同窓会室が一階に入る多目的ホール「秋桜館」は、私たち高五十三回生が入学した当時、ビックビカの新築でした。学校創立百周年記念事業として整備された薄紅色のこの建物が生まれたのは平成九年。一階に柔剣道場・食堂、二階に和室など、三階にアリーナがあり、部活動や合宿などでも使われていました。文化祭・体育祭前の練習や、体育の授業を受けた記憶が

ある同窓生も多いことと思います。

公立高校にも拘らずそんな秋桜館が豪華に建設されたのはなぜか——この理由が富谷市にも関係していたのです。昭和十五年に私たちの母校は「富谷村下桜木」（現在の富谷市成田九丁目）に土地を購入し、生徒たちは植樹をし、学校林として大切に育てていました。

その後、土地と学校林は奨学会の基本財産として長年管理されていましたが、平成九年の母校創立百周年の際に、その土地と学校林を売却した代金が、PTAと同窓会からの寄附金と合わせて記念事業資金として運用され、その中で秋桜館も建設されました。学校林への不思議な感慨に浸って訪れた富谷市成田九丁目のその土地には、現在、物流倉庫等が並んでいます。



● 物流倉庫

## 歴史散策のススメ

元和六年（一六二〇年）、政宗公の書状により宿立ちしたことが確認できる富谷宿は、仙台藩領地の南北を結ぶ奥州街道の要駅として、七北田・吉岡宿の中間に置かれた宿場として栄え、新街道沿いに新たに置かれた宿駅だったことから「富谷新町」と呼ばれていました。奥道中歌には「国分の町よりこへ七北田よ富谷茶飲んで味は吉岡」とうたわれ、銘茶・銘酒の特産地として広く知れ渡っていたそうです。



● ARガイダンスを受けることが出来ます

宮城県最古の酒蔵「内ヶ崎酒造」ほか数件が歴史風情を今に残し、ちょっとした散策が楽しめるエリアとなっています。

内ヶ崎酒造店の向かい、内ヶ崎醤油店の跡地に富谷宿開宿四百年を記念して令和三年にオープンした「富谷宿観光交流ステーションとみやど」は、富谷新町の資料館を備えた観光拠点。宮城の地酒や富谷市のはち

みつといった地元のおいしいものを販売するおしゃれな店舗が並び歴史探訪歩き時の休憩処としてもぴったりです。蔵や醸造樽など醤油店の雰囲気も残すとみやどは、訪れたのが日曜日とあって家族連れなどで賑わっていました。起業・創業の実践やチャレンジの場としての機能もあるそうです。



● とみやど周辺の街並み

## 富谷茶復活プロジェクト

銘茶で名を馳せたという富谷茶はどんな味か気になります。が、残念ながら徐々に廃れ、昭和四十年代に製茶は途絶えていたとのこと。平成二十九年に唯一茶畑を残していた氣仙家と富谷市が覚書を交し、残された茶畑から富谷茶を再生させる「富谷茶復活プロジェクト」が

開始されました。在来種を増やし育てながら、飲料水やスイーツの原料として富谷茶を利用できるよう、地元の中学生やシルパー人材センターの方々など幅広い市民が関わって取り組みが進められています。今はまだ貴重なお茶ですが、一般販売される日が来るよう心の中で応援するのです。



● 茶畑

## 未来のともや？

さて、富谷市は東北にある七十七の市の中で唯一鉄道の駅がありません。通勤通学時の渋滞が問題となっており、道路の上を通るロープウェイの導入について協議していくこと

となつてきているのだとか。未来の公共交通施策が実現したら、全国初の都市型自走式ロープウェイで通学する後輩も出てくるかもしれませんね。

## 編集後記

皆様から寄せられた「私の」高校時代……個性的な先生が多かった。授業と関係ないことはかりよく覚えていて。夏休み等に学校に泊まりで合宿した……等々。特集頁の黒板には書ききれませんでした。皆さんの思い出をシェアしていただき編集集中に胸が熱くなりました。

寄稿や取材でご協力いただきました同窓生、教員の皆様に深く感謝申し上げます。  
(松川瑠理子)

## 【編集委員】

〔高校33回・昭和56年卒〕

石川理恵子 早坂由香里

増子 綾子

〔高校43回・平成3年卒〕

伊藤 朋江 加藤 静穂

千田佐知子 平山 朋子

〔高校53回・平成13年卒〕

太田 寛子 緒方 智江

佐藤美由紀 前田 香織

松川瑠理子

〔常任幹事〕

東海林弘子 我妻 謙子

穀田 恵子 佐藤 響子

## 令和 8 年度総会のご案内

日時：令和 8 年 9 月 12 日(土)

10時30分～(受付は10時から)

会場：母校大講義室

内容：協議

アトラクション

(会食は行いません。)

問い合わせ先：同窓会事務局

電話・FAX: 022-261-7855 (同窓会専用)

E-mail: info@miyaidousoukai.com

(みや1どうそうかい)

総会当番：高44・54回

会報当番：高34・44・54回